

瓜破北遺跡 (その3) 現地公開資料

公益財団法人 大阪府文化財センター
平成 27 年 1 月 17 日 (土)

遺跡の概要

瓜破北遺跡は、大阪市平野区瓜破 2 丁目・瓜破西 1 丁目を中心に、東西 1,300m、南北 500 m ほどの範囲に広がる遺跡です。過去に実施されてきた発掘調査の結果、旧石器時代（今からおよそ 35,000 ～ 15,000 年前）には、すでにこの地で人々が活動しており、その後も現在に至るまで連続と生活の場となっていたことがわかっています。

今回の調査は、大阪府営瓜破西住宅の建て替えに伴うもので、平成 26 年 10 月から実施しています。

今回の調査成果

今回の調査地（瓜破北遺跡 14-1）は、3つの調査区にわかれており、現在は3区北半の調査を進めています。この調査区では、弥生時代後期後半（今からおよそ 1,900 年前）の墓である方形周溝墓や、弥生時代中期終わりごろ（今から 2100 ～ 2000 年前）に掘られた溝などが見つかりました。

方形周溝墓

周囲に溝（周溝）をめぐらせた、平面形が方形をした墓を方形周溝墓と呼びます。今回の調査で見つかったものはややいびつな形をしていますが、1辺が約 7 m になると推定されます。本来は盛り土がほどこされ、人を葬った穴なども存在していたと思われませんが、平安時代ごろ（今からおよそ 1,200 ～ 1,000 年前）の水田開発によって平坦にされてしまい、残っていませんでした。周溝である 42 溝の中からは弥生時代後期後半の土器がたくさん見つかり、その時期につくられたものと考えられます。なお、42 溝からは北東方向に別の溝がわかれてのびています（53 溝）。このため、調査範囲の外側に少なくとももうひとつ、別の方形周溝墓が存在した可能性があります。

弥生時代中期終わりごろの溝

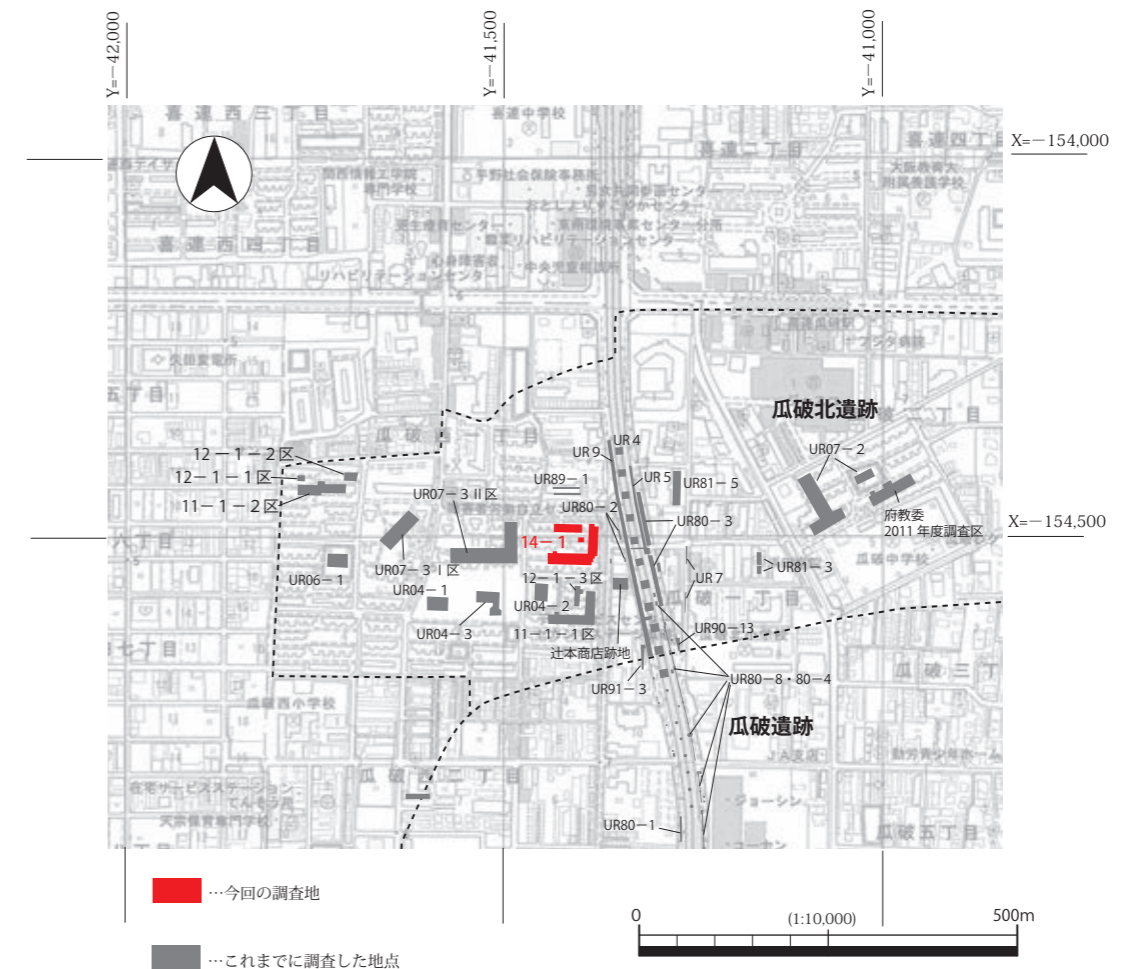
方形周溝墓の南側からは、42 溝よりも古い時期の溝が 3 つ見つかりました。そのうち、43 溝からは弥生時代中期終わりごろの土器がまとまって出土しました。

これとは別に、調査区の南西部と中央からは規模の大きな溝が見つかりました（41 溝・61 溝）。これらは幅が約 4 m、深さが 0.8m もあります。溝の中にたまった土砂のうち、上部の粘土には弥生時代後期～古墳時代前期（今からおよそ 1,800 ～ 1,700 年前）の土器が含まれており、この時期には溝がほとんど埋まっていたことがわかります。この調査区では、今のところ溝が掘られた時期を示す土器は見つかりませんが、周辺の調査地で「弥生時代中期終わりごろの大溝」と考えられているものにつながる可能性があります。



平成 21 年 6 月 1 日発行 国土地理院 1 : 50,000 地形図 『大阪東南部』を使用

図 1 瓜破北遺跡と周辺の遺跡



平成 18 年 11 月 1 日発行 国土地理院 1:10,000 地形図 『長居』を使用

図 2 調査地の位置



図3 瓜破北遺跡 14-1-3区 (北半) 平面図



図4 調査区配置図 (瓜破北遺跡 14-1)

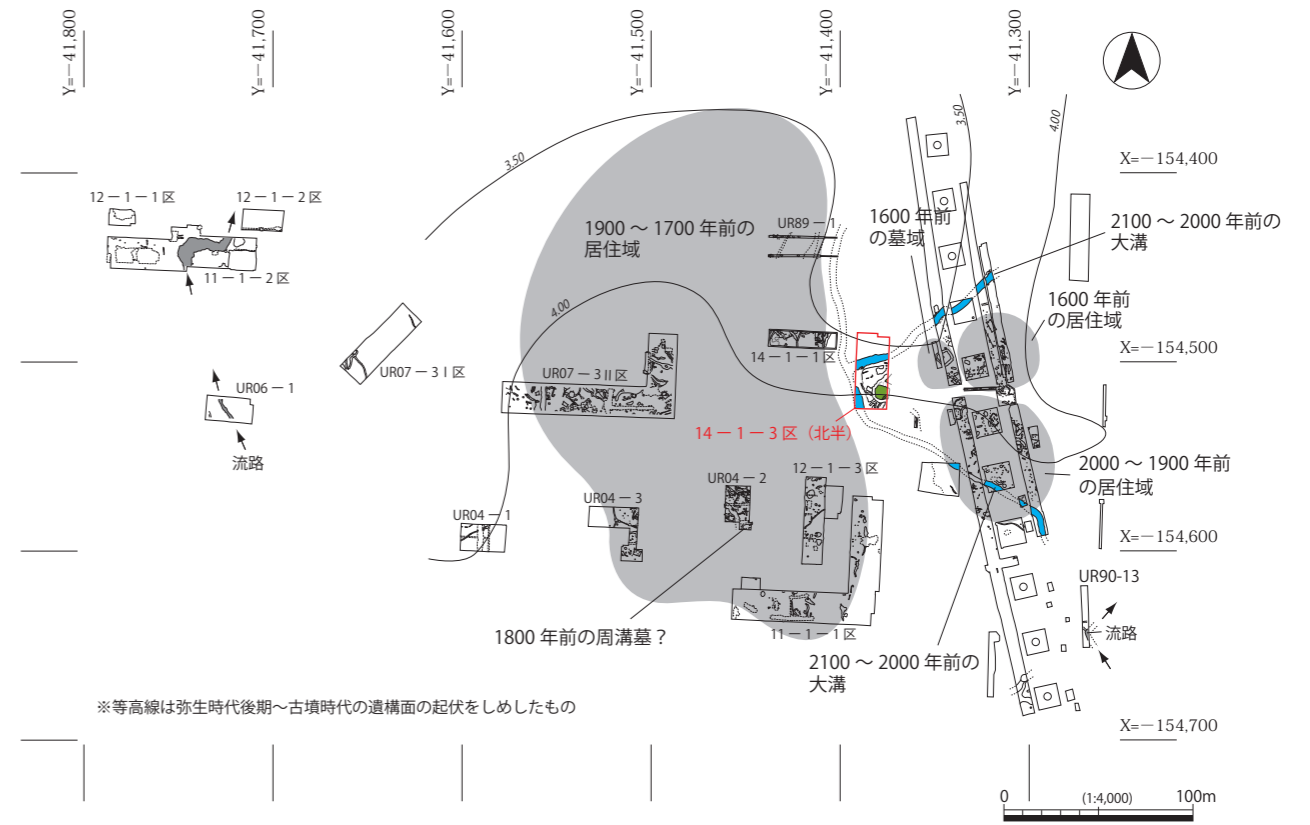


図5 弥生時代後期・古墳時代前期の遺構の分布